

町および半田地区住民自治協議会主催による地域防災訓練が9月29日、役場および醸芳中学校体育館で行われ、約230人が参加しました。今年は、土砂災害の発生を想定し、被害状況確認訓練や避難所開設訓練、炊き出し訓練などを実施。住民らが主体となり、迅速な避難所開設の流れなどを確認しました。また、「土砂災害と防災気象情報」と「災害ボランティアセンターについて」をテーマに、福島地方気象台および町社会福祉協議会の職員による防災講演も行われ、防災や災害発生時の対応などについて知識を深めました。

団結力が防災力へ—— 地域防災訓練

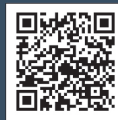
いつ起こるかわからない自然災害を防ぐことはできませんが、被害を予防・軽減するために、日ごろから防災力を高めることはできます。町は、常に防災体制の整備や充実を図っています。災害発生時にいち早く被害に対応できるのは、個人や地域の力です。最悪の事態を想定し、平時から一人一人が防災について考え行動することが、自分や家族の命、地域の命を守ることにつながります。

1_避難所に設置する簡易テントを参加者の皆さんで協力し合いながら組み立てる 2_炊き出し訓練として、陸上自衛隊福島駐屯地の隊員と町赤十字奉仕団の皆さんが作ったカレーを手際よく配膳 3_公衆電話を利用した災害用伝言ダイヤルのかけ方を学ぶ 4_洪水などが実際に発生した状況を再現できるアプリを使用し、災害の怖さを体感 5_参加者が主体となり声を掛け合いながら行われた訓練 6_防災講演を聞き知識を深める参加者の皆さん



災害に備えて.....

自宅や職場周辺の災害発生リスクを把握していますか。町ホームページ掲載のハザードマップ(下記二次元コード)から、災害発生の危険性が高い場所を事前に確認しましょう。



確認エリア

- ☒ 土砂災害(特別)警戒区域
- ☒ 浸水想定区域
- ☒ 家屋倒壊等氾濫想定区域

▼ こちらもチェック ▼

福島県防災アプリ

防災情報や災害情報など、いざという時に迅速で適切な避難行動がとれるよう、必要な情報や機能が一つに集約された防災アプリ。いつ起こるかわからない災害に日ごろから備えましょう。



伊達地域の交通環境整備に向けて 伊達・国見・桑折で協議会設立

地域の発展に欠かせない道路や交通の環境整備について、広域で連携し国などへ要望活動を行う「福島都市圏伊達地域道路整備促進協議会」の設立総会が10月4日、役場で行われました。当会は、伊達市・国見町・桑折町で構成され、国道4号福島北道路の整備による円滑な道路交通ネットワークの早期構築をは

じめ、国道4号国見付加車線の早期整備や被災橋梁の早期復旧など、相馬福島道路を含む東北中央自動車道の利活用に必要な周辺道路の環境整備について、国などへ働きかけを行います。10月25日には、福島河川国道事務所を訪れ、伊達地域の交通円滑化に向けた道路ネットワーク整備について要望を行いました。



1_1市2町で構成された同会の皆さん 2_福島河川国道事務所を訪れ要望書を手渡す高橋町長(左から2番目)

地域で支え合う体制整備 こおり「ささえあい隊」発足

町では、高齢者が住み慣れた自宅や地域で安心して自立した生活を送られるよう、医療・介護・地域・関係機関が一体的に切れ目なく支援できる「地域包括ケアシステム」の深化に取り組んでいます。その一環として、自

発的に参加した町民24人で構成された「こおり『ささえあい隊』」が9月27日に発足。今後は、生活支援コーディネーター(SC)がサポートに入りながら、住民が主体の支え合い活動について協議を継続していきます。



▶みんなで支え合える地域を目指し協議する参加者

伊達地方在宅医療・介護連携 支援センター「伊達さば」開所

伊達地方の地域包括ケアシステムのさらなる推進のため、伊達地方在宅医療・介護連携支援センター「伊達さば」が10月1日、開所しました。伊達市・桑折町・国見町・川俣町が伊達医師会に委託し、医師会内に開設された同

センター。医療と介護が必要な人でも、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、専門職の相談窓口や多職種連携体制を構築するための地域資源の把握や情報発信、医療・介護関係者への研修などを担います。